今日の話題／子育てしますか

1990年代、25歳を過ぎて未婚の女性は、売れ残りの「クリスマスケーキ」にたとえられ、やゆされる風潮があった。早く結婚することが推奨される空気だった。

当時20代だった自分も結婚、子育てをする気でいた。だが人生はままならない。結果的には未婚のまま仕事を続け、子は産まなかった。この個人的な体験は後年、政治的な課題とつながっていると思うようになった。後の世代はさらに未婚、少子化が進んだからだ。

先日、北海道武蔵女子短大（札幌市北区）で「女性と社会」について学生に話をする機会があった。100人超の学生に「結婚して子育てしたいと思いますか」と質問を投げかけてみた。

すると、手が上がったのは半数に満たなかった。

メモ書きの意見も寄せられた。

「結婚や子どもだけが人生ではない」「少子化の原因は子どもが重荷過ぎるから」「子育てには多額のお金が必要。余裕がない」「男性も仕事と育児の両立を選べるようになるといい」

こんな問いかけもあった。

「子どもを産みたいと思わないが、これからの日本のことを考えると産んだ方が良いのかなとも思う。どう思いますか」

「異次元の少子化対策」が報じられる今、若い世代は子を産んでほしいという社会からの圧を感じずにはいられないだろう。

産むかどうかは「お国のために」ではなく、一度きりの人生を考えて自分で決めること。併せて子育てしたい人が諦めなくていい社会でありたい。

（木崎　美和）